

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502101		
法人名	有限会社 ジューム		
事業所名	なごみ 春ヶ丘		
所在地	〒802-0803 福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘5番1号	093-931-5961	
自己評価作成日	平成27年01月06日	評価結果確定日	平成27年02月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から10年が経過し、地域にもしっかり根付く事が出来、春ヶ丘の地域の皆様には本当に感謝しております。認知症を患い、不安に陥る事ばかりの入居者様を町内の方々もよく理解して頂いており、事あるごとに声を日々かけて頂いております。町内のイベントや、施設側のイベントにも多くの交流が行えており、入居者様も町内の住人である事を嬉しく思っております。暖かい日など気候のいい日には、入居者様も町内の散歩を楽しまれており、その時自ら町内の方々にあいさつをされる姿も自然に溶け込んでおり、とてもほほえましく思います。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年02月05日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の一角に、南向きに建てられた民家改造型2階建ての、庭には小鳥の囀る声と暖かい日差しが差し込み家庭的な雰囲気の「なごみ春ヶ丘」がある。自治会に加入し、地域の一員として行事や活動に参加し、ホームの行事や運営推進会議には、家族と地域の方が参加し、相互交流が始まっている。また、利用者職員は、家族のような信頼関係を築き、なんでも話せる関係は家族の驚きと深い信頼に結び付いている。毎週歯科医の訪問、内科医の月2回往診と看護師や介護職員との医療連携体制が確立し、利用者の健康管理は万全で家族の安心に繋げている。リビングルームで調理の音や匂いが漂うと、利用者が集り、賑やかな食事風景になっている。また、職員の優しい思いやりが、利用者の心をほぐし、温かい気持ちにさせる「グループホーム なごみ春ヶ丘」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次へのステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活に密着した「理念」を掲げており、職員一同しっかり理解し、仕事に活かしている。	ホームが目指す介護サービスを示した理念を掲げ、職員全員が理念を理解し、利用者が自由に、あるがままの暮らしが出来るように支援している。また、地域密着型事業所として、認知症の啓発活動にも取り組み、地域住民との信頼関係が築かれている。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設時より地域密着を踏まえ、町内と接しており、多くの町内行事にも参加している。	町内会に加入し、利用者や職員は、地域の一人として、行事や活動に参加し、管理者は、町内の組長を引き受けたり、小学校の下校時の交通整理や夜間の見回りに出掛けたりして、地域との信頼関係を築き、地域の高齢者の介護相談や独居老人の安否確認を行う等、地域交流の輪が広がっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの認知症についての問い合わせにも気軽に訪ねて頂けるように日々努力している。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回多くの町内の方々に参加して頂いており、施設の状況や、生活ぶりを見て頂き、助言や感想をサービス向上に活かしている。	年6回開催の運営推進会議には、外部からたくさんの参加者に集まってもらい、外部の目を通して質問や、要望、アイデア、情報等が出され、ホームの現状や取り組み、課題等の報告と合わせ、充実した会議になっている。出された意見は、ホーム運営に活かされるように取り組んでいる。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小倉南統括からの入居者様もいる為、頻繁に役所からの訪問もあり、協力関係を築いている。	管理者は、近くの区役所に出向き、困難事例や疑問に思う事等を相談し、情報交換し連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、ホームの実情や利用状況を把握し、情報提供やアドバイスを受け、業務改善やホーム運営に反映させている。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は全てにおいて施錠する事無く生活をしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会や職員会議の中で、身体拘束について職員全員が学び、具体的な禁止行為について事例検証し、身体拘束の弊害について職員間で話し合い、利用者が、安心して暮らせる介護サービスの提供に取り組んでいる。また、玄関の鍵は日中は開放し、利用者が自由に出入りできる環境を整えている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が互いに気を付け、施設内での虐待防止に気を付けている。また、会社側からの職員の心のケアにも注意を払うように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者も幾度となく研修を受けており、これを必要とする入居者様がいればすぐに支援できる。	管理者は何度も制度の研修を受講し、資料やパンフレットを揃え、勉強会の中で職員に説明し、日常生活自立支援事業や成年後見制度が、重要な制度であることを理解している。また、利用者や家族から制度について相談があれば、何時でも支援出来るように体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者とケアマネが時間をかけて十分な説明をしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と密にメールで近況報告をしており、意見や要望を運営推進会議の議題の一つに掲げる事もあり、十分に運営に活かしている。	ホームの行事や面会時に、家族と話し合い、利用者の暮らし振りや健康状態、希望等を報告し、家族から意見や要望を出してもらい、ホーム運営や利用者の介護計画作成に反映させている。また、話す機会の少ない家族とは、電話やメールで連絡しながら意見や要望を聞き取っている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談等、自由に発言できる環境をつくり、働きやすい職場作りに反映させている。	勤務時間内に、ミーティングや勉強会を行い、職員の意見や、要望、気付きやアイデア等を出してもらい、意見や要望は、出来るだけ速やかに実現出来るように取り組んでいる。また、朝の申し送り時に、職員間で気付きや心配事等を話し合い、解決に向けて取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の長所を理解し、発揮できる職場環境に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員と共に協力し、生き生きと発揮できるよう努力している。	職員の募集は、介護に対する考えや人間性を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。職員の休憩室を用意し、休憩を交代で取りながら、リフレッシュして働ける職場を目指している。また、管理者は、職員の特長や不得手を把握し、役割分担や勤務体制に配慮し、やりがいのある仕事ができる職場環境に取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会やリアルタイムでの質問にも応じている。	利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組み、利用者の人権が守られる介護について、職員間で話し合い、利用者が安心して、落ち着いて暮らせる介護サービスの提供を目指している。また、勉強会の中で、利用者の人権教育と啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会のさまざまな研修に参加しており、職場にも活かしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社とも情報共有に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで管理者・ケアマネが面談を重ね、不安なく入居できるよう支援している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望を細かく聞き出し、安心して頂けるように努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状態をよく伺い、主治医ともよく相談し、必要とされるサービスを見極め、対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の何気ない会話にも耳を傾け介護に活かしている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は個々の入居者様のご家族との関係も十分把握しており、ご家族と共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、ご家族にくれぐれもお願ひするところであり、協力して頂いている。	入居時に利用者や家族に、自宅での暮らし振りや、友人、知人、大切な人等を聞き取り、入居後もホームに会いに来てもらったり、訪ねて行けるように支援し、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関わりが、継続出来るように取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に皆様がりびんぐですごされており、会話やテレビを楽しまれており、職員は会話に支障がないように係わっている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者・ケアマネが関係を断ち切る事無く、ご家族とのコミュニケーションをとっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に散歩に出かけた時や入浴時に困った事が無いか尋ね、それを職員間で共有し、希望・意向の把握に努めている。	職員は利用者との日常会話の中から、思いや意向を聞き取り、職員間で共有し介護の中で活かす取り組みをしている。また、意志の疎通が困難な利用者には、職員が利用者寄り添い、話しかけ、利用者の表情を見ながら思いに近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報やご家族からのヒアリングを十分にやっている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況に応じ、カンファを行い、個々の状態を把握している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の状態に応じ、ご家族及び主治医と連携を図り、プランの見直しを行っている。	介護計画は、利用者の意見や家族の要望等を聞き取り、担当者会議やモニタリングの中で職員同士で検討し、利用者一人ひとりに合わせた、介護計画の作成に取り組んでいる。また、計画がうまく機能しているかを確認し、その都度見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察を個別記録し、介護計画の見直しの参考にしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りご本人及びご家族の要望にこたえられるよう柔軟な対応を心かけている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の能力に応じ、新聞の整理など廃品回収のお手伝いをして頂いている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問歯科月1・内科月2以上の往診を受けており、24時間医療連携もおこなっている。利用者や医師との関係も良好で診療日を楽しみにしている。	入居時に利用者や家族と話し合い、馴染みのかかりつけ医と、往診体制の出来る提携医療機関を選択して貰い、看護師と介護職員が協力し、利用者の健康状態をチェックし、早期発見、早期対応に取り組んでいる。また、訪問歯科も毎週1回往診があり、口腔ケアに力を入れている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の日々の状態を看護師に伝えておりアドバイスや日々の健康管理に活かしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関及びご家族と密に連携を図り、早期退院できるように努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っており、ご家族とは早い段階で意思確認を慎重に行っている。	ターミナルケアについて、入居時に利用者や家族に、ホームで出来る看取り介護について説明し、利用者や家族から質問や要望を聞き取っている。利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、今後の方針を確認し、最後までホームで暮らせる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あわてず、日頃の訓練を活かし、自信を持って対応できるよう備えている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防及び地域の方々の協力で施設災害時、近隣災害時の対応を決めている。	年2回消防署の協力を得て、防災訓練を実施し、夜間2階の6人の利用者の避難誘導について、対応を確認し、利用者全員が安全に避難場所に避難出来る体制を整えている。また、地域の方の協力を得て、1階の3人の利用者の見守りをお願いしている。非常食、飲料水の備蓄も用意している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮し、対応している。	管理者と職員は、利用者の尊厳と権利を守るための介護について常に話し合い、大きな声や言葉遣いに注意し、利用者のプライバシーに配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人記録の保管や、写真の掲載等、情報漏洩防止のための支援が整っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の思いを把握し、自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のくらしのペースで、1日を楽しんで頂いている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度外部からカットに来て頂き、好みのカットをして頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	洗い物の片付け等、職員と一緒にやっている。	職員が作る手づくりの料理は、利用者の嗜好を聞き取り、食べたい物を調理し利用者と職員と一緒に食べて、楽しい食事の時間を過ごし、食欲増進に繋げ、利用者一人ひとりの健康の源になっている。また、職員は、後片付けや、茶碗吹きを、利用者の残存能力に合わせてお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に日々管理記録しており、その方にあった支援をしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と相談しながら、個々のケアをしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや促しにより、失敗なく安心して排泄ができるように支援している。	職員は、利用者の排泄パターンや健康状態を把握し、早めの声かけやトイレ誘導を行い、失敗の少ないトイレでの自立に向けた、排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も出来るだけトイレ誘導し、利用者の自信回復に繋がるトイレでの排泄の支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、医師の指示に沿ったケアをしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のその日の体調管理を十分配慮し、支援している。また、血流の悪い方には、毎日足浴も行っている。	入浴は利用者の希望を優先し、体調管理に気をつけて、利用者の楽しい入浴が出来るように取り組んでいる。また、入浴を拒否する利用者には、時間をずらし、職員が代わってタイミングを見て声かけし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的及び注意点を把握できるよう個々のカルテに記載している。また、生活習慣で服薬量の軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみを把握し、支援している。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には、個別に散歩に出かけたり、車や徒歩で季節を感じられる所に出かけたりしている。	気候の良い時期は、周辺の庭の花を眺めたり、買い物や、2匹のセラピー犬と散歩に出掛け、利用者の気分転換を図っている。また、家族の協力で、外出や外食、自宅に帰ったりして、利用者の生きる力に繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に必要な物がある時、職員と共に買い物に出かけ、ご自分で選ぶ楽しみも支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	十分に支援している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存住宅を利用している為、見慣れた空間であり、庭もある為季節感も十分に感じていると思う。	民家改造型の住宅は、家庭的で利用者の気持ちを落ち着かせ、手入れの良い庭で、季節を感じ楽しんでいる。利用者が一日の大半を過す、リビングルームでは、仲の良い利用者同士の会話が弾み、職員と利用者が、作品作りや歌で盛り上がり、明るくて楽しい共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何度か座る場所を変え、気分転換できるよう工夫している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と十分に相談し工夫している。	利用者の使い慣れた筆筒や机、枕や布団、生活用品などを出来るだけ持ち込んでもらい、不自由のない、安心出来る居室になっている。また、和風の造りは、利用者が穏やかに過せる温かい雰囲気の室内である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮し、日々自立した生活が送れるよう心掛けている。		